銷夏特集号特別企画

闘う俳優 山本太郎 インタビュー

「言い訳はしたくない」

脱原発への決断

1990年代「天才・たけしの元気が出るテレビ!!」の「ダンス甲子園」で競泳パンツと競泳帽という衝撃の姿でテレビ出演。同世代の高校生を中心に、「メロリンQ」で一世を風靡した山本太郎氏。十数年前からはNHK大河ドラマ「新撰組！」、映画「バトル・ロワイヤル」などにも出演し、俳優としての才能も開花させた。だが昨年の東日本大震災により、彼の生活は一変した。「脱原発」を叫んだことで、彼の孤独な闘いがスタートする。新聞部では脱原発を求めて行動し続ける山本氏にその思いを聞いた。

3・11を直視せよ

5重の壁があらわすもの

―福島第一原子力発電所の事故が起きてから、脱原発に立ち上がるまでの心境を教えてください

事故が起きて、「原発ってヤバイものなんだな」ってことが分かりましたよね。それまで原子炉は5重の壁に守られているから安全だと言われていましたが、逆に言えばそれだけ危ないものが中に入れてあるということ。それが漏れ出し、冷やせず、爆発もして…。あり得ないことですよね。

原子炉が爆発したとき、自分の中で「生きたい」という思いが強く湧いてきました。それも一人ではなく皆で。そして、生き延びるためにはどうすればよいのか。まずこれだけリスクあるものは止めなければならない。それには原発に対し「NO!」と声を出すしかない、と思いました。

学者の中には「危険ですよ」という方もいれば、「安全ですよ」という方もいる。しかしその先を聞くと、実際のところわからないという。だとしたら、「危険ですよ」という方を頭の中に入れて立ち回らないと、健康も安全も守れないと思います。

―声を上げることへの不安はなかったですか

もちろんありました。声を出すことで自分はどうなるのかと。芸能界の仕事はスポンサーで多くが成り立っている。脱原発を叫ぶことは、電力会社をはじめ、電気機器メーカー、保険業、金融業、建設業、放送業…全てのスポンサーに唾を吐くことと同じ。間違いなく仕事がなくなることは、子どもでも分かることですよね。

けれどいま目の前の生活に囚われて、原発を止めようという動きに加わらないことは、長期的にみて自分にはあり得ないことでした。もしまた事故が起こったとき、もしその値に近い地域の子どもたちはみんな見殺しにされているのと同じだと思っています。本当に問題がないなら、震災前から20ミリシーベルトが基準値だったはずです。保障・賠償を抑えるための「子殺し政策」ですよ。

また、37年の人生を振り返って、僕の一番輝いていた時期は〝子ども時代〟だった。地面に転がったり、側溝にわざとはまって水をせき止めたり、土砂降りの公園でヘッドスライディングしたり……最高の自由。今の東日本で子どもがこんなことをしたら大変なことですよ。運動会ではマスクをしないと玉入れができない、外出時間は一日1時間って、一体どういうことでしょうか。子どもらしくできないのです。

これは親が悪いわけではありません。数値を弄ってこういう状況に住まわせてしまうこの国・この政府、そして3・11まで無関心であることによってそういう国を作ってしまった自分たち大人がいけなかった。無関心だった自分に対しても、怒りを持っています。

不条理を押し付けられている人たちに対して手を差し伸べることができるとしたら、それは声を上げることだと思っている。

―現場の人たちの中には「騒ぎ立てないで欲しい」という声も聞かれますが

福島へ行くと、「被ばくのリスクを言われても、傷付くだけだから黙っていて」、「我々はここを動くことができない」と言われることがあります。ただそういう中にも、子どもたちでも移したいという方はいらっしゃる。僕はそういうたちのためにもアナウンスをやめる気はありません。

原発で雇用や経済が成り立っていた地域にとって、原発を止めることへのハードルはいくつもあります。だけどこのままでは持続可能な社会は実現できない。いまこの瞬間も危険なのですから。

―山本さん自身はいまの福島に対し、どのように対応していくことが必要だと考えていますか

2011年12月に、僕は口ポットで暮らす住民に対し、この保養を当てはめて充実させていくべきだと僕は思っています。

けれど、一部地域では「保養」という言葉さえNGワードになっていると聞きます。保養へ行くと「おまえ行ってたのか」と白い目でみられる。保養という呼び方からさえ、考えていかなければならない状況です。

僕たちは被害者であり、被ばく者でもあります。それにも拘わらず、なぜいくつもの小さな対立構造の中でも生きていかなければならないのでしょうか。ケアされるべき人が、何一つケアされない。これこそが原子力ムラの姿ですよね。しわ寄せが弱者にくる。

20mSvは「子殺し政策」

―山本さんは福島のお母さん方と、視察やデモを通し、〝子ども〟の被ばくに対し積極的に行動をしていますね。なにか強い思い入れでも

自分に子どもはいないけど、子どもって国の未来に直結していますよね。簡単な話です。子ども一人一人が守られる社会でなかったら、日本の未来はありません。

年間線量限度20ミリシーベルトという殺人的な数値が許可されているということは、シア・チェルノブイリの隣国、ベラルーシでは年に2回、海外からの支援を受けて、国外での保養、デトックスが行われています。福島に限らず、東日本に点在するホットスポットでも保養を行うべきだと僕は思います。

報道の怖さとツイッターの力

―玄海原発の再稼働問題の際には、反対を求めて佐賀県庁へも行くなど、行動の幅が広いですね

ええ。フォーカスを立てるべきところに自分が行けば、取材を受ける可能性がありますから。問題の周知を図るチャンスです。

ただ、報道の怖さも知っている。基本的に取材は断らないようにしていますが、受けた事柄が起こったときも、もしデモだとビジュアル的に「これだけの人が集まりました」と訴えることができます。

中には取引会社との関係などで、デモに参加している姿を見られてはまずいといった人たちもいる。そういう方にお願いしたいのは、周りの10人と話し、その人たちを原発問題に本気で向き合わせることこそが、実は一番大きなアクションなのかもしれない。

ツイッターは本当にあって良かったと思います。もともとネットさえ遠い存在だったのですが、震災を通してその重要性、使用頻度は高まりました。

―真実を伝えない報道への対抗策として、山本さんはツイッターを上手く活用している印象を受けます

ツイッターは本当にあって良かったと思います。もともとネットさえ遠い存在だったのですが、震災を通してその重要性、使用頻度は高まりました。

―実際、役者のお仕事はどうですか

ほぼなくなりました。それでも先般、スポンサーが雛色を示す中、主演の方が僕のことを推してくださり、舞台への出演オファーが掛かりました。ただ舞台がはじまると、その数カ月間、全く身動きが取れなくなります。最近も一つ、舞台に出ていましたが、原発問題に時間を割くことができなかった。それを考えると、この状況下で再び4カ月も市民運動に参加できないのは悔しいと思い、今回は残念ですが断りました。

一方で、横浜のソーラーパネル会社へ就職したのは、生活ができなかったからという理由が大きかったですよね。ただし契約は3カ月間です。続けた方が収入面でも安定しますが、自然エネルギーは太陽光だけではない。できれば、自然エネルギーを扱っている様々な企業へ就職し知られることで、自分自身と知らなかった人たちへの知識、選択の幅を広げられれば、と思っています。

―最近のアクションを教えてください

夏に向けて大飯原発の再稼働に向けて議論が高まっています。何があるというのではないですが、まず地元へ足を運んでいます。住民の話を聞いたり、座り込みをしたり。

感じているのは、地元からアクションを起こしづらいってこと。地域柄、親族があれば1人は原子力産業に関わっている。そこで反対を唱えるのは難しい。

だけど、事故が起こればそれは福井県だけでなく、気候・風向きによって関西、関東へと、広く放射能のリスクを負うことになります。もはや日本でリスクが少ないのは、一部の地域ってことにもなりかねない。原発は全国的な問題なのです。

5重の壁があらわすもの

今回の事故による健康被害が目に見えてあらわれてきたとき、「自分にどう言い訳するのか……」と声を上げないこと、アクションを起こさないことは、原発の稼働を黙認することと同じ。「しょうがなかったじゃないか」と、死ぬまで自分に言い聞かせていくことはとても耐えられません。

―初めてデモ行動へ参加したときの感想はいかがでしたか

デモデビューは2011年4月10日の高円寺。母も同行したがったが、デモといったら、ジュラルミン（の盾）と火炎瓶ですよね？とてもじゃないけど母親まで守る自信はない。乱闘に巻き込まれるかもしれないという緊張感の中、母を説得して1人で向かいました。

だけど現場は、すでに〝ピースフル〟な集まりで、本当に拍子抜けでした。皆、いのちに正直に向き合っていて、子どもたち、孫たちの代まで持続可能な社会を続けていきたいという、とてもシンプルで謙虚な思いを持った人たちでした。

むしろ暴力的なのは〝原発〟と。そして代わりに、デモやパレードに参加してもらうことも一手だと思います。

なにも先頭に立って闘うことだけが行動ではありません。草の根で広げていく行動を感じた納税者たちは、「話をきいてくれ」と立ち上がっただけのことです。僕もその中の一人でしかなかった。

―真実を伝えない報道への対抗策として、山本さんはツイッターを上手く活用している印象を受けます

ツイッターは本当にあって良かったと思います。もともとネットさえ遠い存在だったのですが、震災を通してその重要性、使用頻度は高まりました。

―この1年行動をしてきて、失ったもの、得たものを教えてください

収入は言うまでもなく激減しましたね。

ただ、それ以上に得たものは大きい。やっぱり人との出会い。本気の人と出会えることは財産だと思いますよ。

あと自分自身、解放もされました。もともと打算的な性格ではないですが、これまではどこか仕事に繋がることを、との考えがありましたから。それが今では、完全に自分の思いに対して素直に動くことができていますよね。

一方で、横浜のソーラーパネル会社へ就職したのは、生活ができなかったからという理由が大きかったですよね。ただし契約は3カ月間です。続けた方が収入面でも安定しますが、自然エネルギーは太陽光だけではない。できれば、自然エネルギーを扱っている様々な企業へ就職し知られることで、自分自身と知らなかった人たちへの知識、選択の幅を広げられれば、と思っています。

―最近のアクションを教えてください

夏に向けて大飯原発の再稼働に向けて議論が高まっています。何があるというのではないですが、まず地元へ足を運んでいます。住民の話を聞いたり、座り込みをしたり。

感じているのは、地元からアクションを起こしづらいってこと。地域柄、親族があれば1人は原子力産業に関わっている。そこで反対を唱えるのは難しい。

だけど、事故が起こればそれは福井県だけでなく、気候・風向きによって関西、関東へと、広く放射能のリスクを負うことになります。もはや日本でリスクが少ないのは、一部の地域ってことにもなりかねない。原発は全国的な問題なのです。

アクションは一つじゃない

―山本さんのように思っていても、なかなか声を上げられないという方も多いですが

原発を止めるために今一番必要なのは〝頭数〟です。同じ意識を持った人たちがたくさん集まることが重要です。メディアは操作されているので、数字だけだと小さく見積もられてしまいます。だから、デモだとビジュアル的に「これだけの人が集まりました」と訴えることができます。

中には取引会社との関係などで、デモに参加している姿を見られてはまずいといった人たちもいる。そういう方にお願いしたいのは、周りの10人と話し、その人たちを原発問題に本気で向き合わせることこそが、実は一番大きなアクションなのかもしれない。

報道の怖さとツイッターの力

―玄海原発の再稼働問題の際には、反対を求めて佐賀県庁へも行くなど、行動の幅が広いですね

ええ。フォーカスを立てるべきところに自分が行けば、取材を受ける可能性がありますから。問題の周知を図るチャンスです。

ただ、報道の怖さも知っている。基本的に取材は断らないようにしていますが、受けた事柄が起こったときも、もしデモだとビジュアル的に「これだけの人が集まりました」と訴えることができます。

中には取引会社との関係などで、デモに参加している姿を見られてはまずいといった人たちもいる。そういう方にお願いしたいのは、周りの10人と話し、その人たちを原発問題に本気で向き合わせることこそが、実は一番大きなアクションなのかもしれない。

「官邸前、すごい人、すごい熱！」
（2012年6月15日19:51:55 山本氏ツイッターから）

本気の人と出会えること それは財産

―この1年行動をしてきて、失ったもの、得たものを教えてください

ほぼなくなりました。それでも先般、スポンサーが雛色を示す中、主演の方が僕のことを推してくださり、舞台への出演オファーが掛かりました。ただ舞台がはじまると、その数カ月間、全く身動きが取れなくなります。最近も一つ、舞台に出ていましたが、原発問題に時間を割くことができなかった。それを考えると、この状況下で再び4カ月も市民運動に参加できないのは悔しいと思い、今回は残念ですが断りました。

一方で、横浜のソーラーパネル会社へ就職したのは、生活ができなかったからという理由が大きかったですよね。ただし契約は3カ月間です。続けた方が収入面でも安定しますが、自然エネルギーは太陽光だけではない。できれば、自然エネルギーを扱っている様々な企業へ就職し知られることで、自分自身と知らなかった人たちへの知識、選択の幅を広げられれば、と思っています。

―最近のアクションを教えてください

夏に向けて大飯原発の再稼働に向けて議論が高まっています。何があるというのではないですが、まず地元へ足を運んでいます。住民の話を聞いたり、座り込みをしたり。

感じているのは、地元からアクションを起こしづらいってこと。地域柄、親族があれば1人は原子力産業に関わっている。そこで反対を唱えるのは難しい。

だけど、事故が起こればそれは福井県だけでなく、気候・風向きによって関西、関東へと、広く放射能のリスクを負うことになります。もはや日本でリスクが少ないのは、一部の地域ってことにもなりかねない。原発は全国的な問題なのです。

―実際、役者のお仕事はどうですか

ほぼなくなりました。それでも先般、スポンサーが雛色を示す中、主演の方が僕のことを推してくださり、舞台への出演オファーが掛かりました。ただ舞台がはじまると、その数カ月間、全く身動きが取れなくなります。最近も一つ、舞台に出ていましたが、原発問題に時間を割くことができなかった。それを考えると、この状況下で再び4カ月も市民運動に参加できないのは悔しいと思い、今回は残念ですが断りました。

一方で、横浜のソーラーパネル会社へ就職したのは、生活ができなかったからという理由が大きかったですよね。ただし契約は3カ月間です。続けた方が収入面でも安定しますが、自然エネルギーは太陽光だけではない。できれば、自然エネルギーを扱っている様々な企業へ就職し知られることで、自分自身と知らなかった人たちへの知識、選択の幅を広げられれば、と思っています。

―最近のアクションを教えてください

夏に向けて大飯原発の再稼働に向けて議論が高まっています。何があるというのではないですが、まず地元へ足を運んでいます。住民の話を聞いたり、座り込みをしたり。

感じているのは、地元からアクションを起こしづらいってこと。地域柄、親族があれば1人は原子力産業に関わっている。そこで反対を唱えるのは難しい。

だけど、事故が起こればそれは福井県だけでなく、気候・風向きによって関西、関東へと、広く放射能のリスクを負うことになります。もはや日本でリスクが少ないのは、一部の地域ってことにもなりかねない。原発は全国的な問題なのです。

甲状腺検査の拡大を

―最後に、医師・歯科医師に向けての希望・メッセージをお願いします

福島県放射線健康リスク管理アドバイザーで、甲状腺学会の某医師から、被災地住民に勝手に甲状腺の検査をするのではない」という話が出ています。それは完全に、情報を統制しようとする動きだと僕は思っている。まずいデータは出したくないと。それは医師としてやるべきことでしょうか？

医師を目指したときは、多くが、弱った人を助けたいという思いや、自分が助けてもらったといった経験に基づいていると思います。だからいま、国が行おうとしている犯罪行為に加担する医師・医学者とは、一線を画して欲しい。

やはり甲状腺エコー検査等をしてくれる医師が増えてくれなければ、被害の現実は見えてきません。データを残しておかなければ、将来比較することさえできません。定期健診の項目にエコーが入る、少なくとも希望する方には検査を行えるように間口を広げる。そうなることを願っています。

2012年6月15日・東京

（取材：知念・緑川）

書籍案内

『ひとり舞台』
脱原発―闘う役者の真実
集英社、2012年、定価1,300円